

第 32 回 さろん哲学 テーマ：当日募集

日 時：2013 年 4 月 21 日(日)

場 所：青山カフェ ALBA (外苑前)

司 会：芹澤

参加者：22 人

要 約：

前半と後半の 2 部構成にしました。

前半の 1 時間で、今日どんなテーマについて話すか参加者からお題を挙げてもらいました。後半の 1 時間では、前半で決められたテーマについて哲学対話を行いました。

内 容：

#### 1. 会で提案されたテーマ

H さん「家族って？」

K さん「もやもやをことばにできるのか？」

T さん「伝えるって何か？」

S さん「美しさってなんだろう？」

これらのお題のひとつひとつについて、参加者全員で検証をしながら進めました。お題へ向けられた問いとして、

「人間関係についての問題はすべて、どこかで“家族”につながってるのではないか？」

「もやもやをことばにすることは一定程度はできると思うが、100%ということはあるのだろうか？」「ことばは何かを伝えられるのか？」「なんのために伝えるのか？」「じぶんのためなのか、それとも欲求のためなのか？」「誰もが等しく“美しい”と感じるようなことがあるのか？」「美という概念をどんな枠組みの中でとらえているか？」

などが挙げられました。

上記の問いのなかで共通して前提になっている要素——自己と他者の交わりにおける感覚・思考の有り様や、美の概念・感覚を如何に他者と交換しているか（できるか）、また伝えるという行為に含まれる要素とはどんなものか——を抽出し、「コミュニケーションを行う時、その現場で私たちはどんなことを行っているのか」というテーマを立てた。

#### 2. 決定したテーマでの哲学対話

対話を通じて出された意見としては「コミュニケーションは双方向的なもので、話すと同時にその発言を自分の耳から聞きつつ内容に再検討を加えているのでは？」「相手がいて話すことで初めて自覚できることがある」「話すことで伝わるものとそうでないものの差がわかる」などが出された。

コミュニケーション時に発生する現象を総体として検討するため、テーマに沿って全体像を考察するに留まる内容となった。また、ひとつひとつ細かく取り上げて考察したい意見や同意も散見されたが、時間の制約上次回を期した。

当日は構成上、対話する時間が 1 時間に限定されていたこともあり、議論の深化にもっと時間をかけたいという御意見もいただいた。また、前段の問い立ての部分に 1 時間をかけることの是非も併せて挙げられた。

今回未消化なご意見は機会があれば今後取り上げたいと思います。 (文責：芹澤)